

平成24年3月期 決算短信補足資料

平成24年5月10日

丸大食品株式会社

URL <http://www.marudai.jp>

◇ 連結業績(平成24年3月期)	P.2
◇ 平成24年3月期 セグメント別 連結業績	P.3
◇ 連結財政状態	P.4
◇ 平成24年3月期連結業績のポイント	P.5
◇ キャッシュ・フロー	P.6
◇ 次期の見通し	P.7
◇ 平成24年3月期 主力商品紹介	P.8

連結業績(平成24年3月期)

■売上高■

計画は下回ったものの、内食回帰の傾向のなか、加工食品事業の売上が伸びたことから、前年比2.7%の増収。

■営業利益■

原材料・燃料価格の高騰、食肉事業の収益性低下のなか、事業全般にわたるコスト削減効果などにより、前年比3.2%の増益。

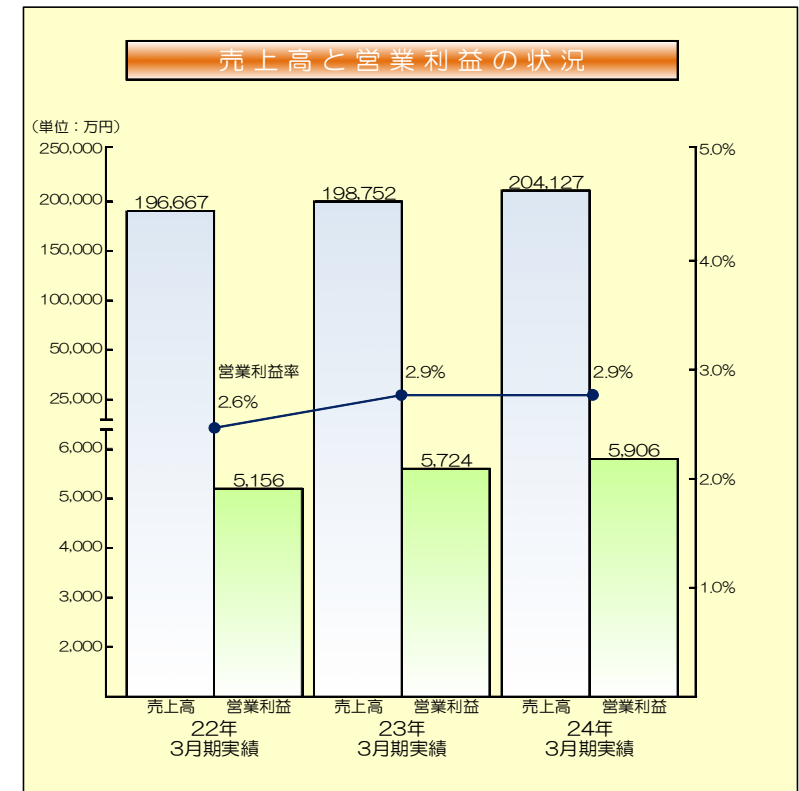
■当期純利益・配当■

前年比2.0%の増益。
配当は、1円増配の1株当たり9円を予定。

(単位:百万円)

	23年3月期実績	24年3月期計画	24年3月期実績	(単位:百万円)			
				対23/3増減額	対23/3増減率	対計画増減額	対計画増減率
売上高	198,752	205,000	204,127	5,374	2.7%	△ 873	△ 0.4%
営業利益 (売上高比率)	5,724 (2.9%)	5,800 (2.8%)	5,906 (2.9%)	182 (0.0%)	3.2% -	106 (0.1%)	1.8% -
経常利益 (売上高比率)	5,822 (2.9%)	5,900 (2.9%)	6,123 (3.0%)	301 (0.1%)	5.2% -	223 (0.1%)	3.8% -
当期純利益 (売上高比率)	3,854 (1.9%)	3,900 (1.9%)	3,933 (1.9%)	78 (0.0%)	2.0% -	33 (0.0%)	0.8% -
1株当たり 当期純利益	29.18円	30.02円	30.28円	1.10円	-	0.26円	-
1株配当	8円	8円	9円	1円	-	1円	-
配当性向(%)	27.4%	26.6%	29.7%	2.3%	-	3.1%	-

※計画:平成23年5月12日発表連結業績予想



平成24年3月期 セグメント別 連結業績

(単位:百万円)

	23年3月期	24年3月期	
		前年比 増減額	前年比 増減率
加工食品事業	145,260	150,179	4,918 3.4%
ハム・ソーセージ	87,118	89,856	2,738 3.1%
調理・加工食品	58,142	60,323	2,180 3.8%
食肉事業	53,055	53,543	487 0.9%
その他	435	404	△ 31 △ 7.2%
連結売上高	198,752	204,127	5,374 2.7%
加工食品事業 (売上高比率)	5,195 (3.6%)	5,486 (3.7%)	290 (0.1%) 5.6%
食肉事業 (売上高比率)	345 (0.7%)	242 (0.5%)	△ 102 (△ 0.2%) △ 29.7%
その他 (売上高比率)	183 (42.1%)	177 (44.0%)	△ 5 (1.9%) △ 3.2%
営業利益 (売上高比率)	5,724 (2.9%)	5,906 (2.9%)	182 (0.0%) 3.2%

■加工食品事業■

・ハム・ソーセージ部門は、主力のロースハム、ベーコン・ソーセージ類及び中元・歳暮ギフトの売上が堅調に推移し、当部門の売上高は前年比3.1%の増収。
(ギフトは、数量ベースで前年比4.6%増加)

・調理・加工食品部門は、韓国風チゲ「スンドゥブ」、「旨味工房カレー」などのレトルト商品、デザート、ヨーグルトなどのデイリー商品の売上が伸びた他、平成23年10月に子会社化した(株)マルシンフーズの売上寄与などにより、当部門の売上高は前年比3.8%の増収。

結果、当セグメントの売上高は前年比3.4%の増収。

・営業利益は、販売競争激化、原材料・燃料価格の高騰などの厳しい環境下、売上高の増加や生産・販売両部門でのコスト削減効果などにより、前年比5.6%の増益。

■食肉事業■

・牛肉は、お客様の低価格志向の浸透、食中毒事故・セシウム汚染などの影響により、需要・相場が低迷するなか、米国産牛肉の拡販などにより、牛肉の販売数量及び売上高は前年比増加。

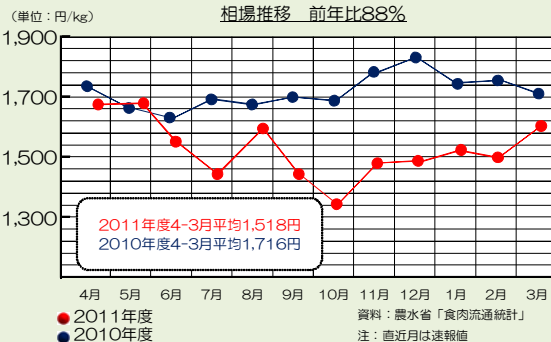
・豚肉は、夏場以降、供給量の回復から相場が下落し、販売数量、売上高ともに低迷。

結果、当セグメントの売上高は、前年比0.9%の増収。

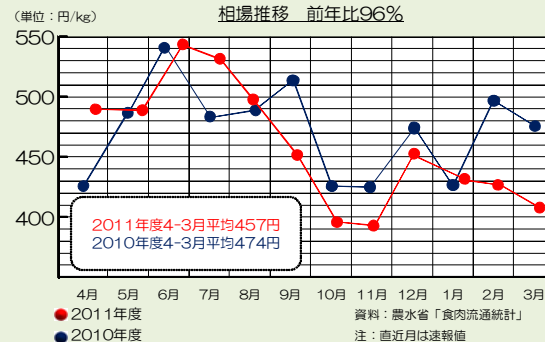
・営業利益は、国産牛肉や豪州産牛肉販売の収益性の悪化などから前年比△ 29.7%の減益。

資料：枝肉規格別卸売価格動向

和牛枝肉の規格別卸売価格動向
去勢和牛A4 (東京市場)



国産豚枝肉の規格別卸売価格動向
上物 (東京市場)



連結財政状態

(単位:百万円)

	23年3月期	24年3月期	増減額
現金及び預金	13,619	12,482	△ 1,136
売上債権	19,921	25,234	5,313
棚卸資産	14,596	14,054	△ 542
その他の	2,496	2,567	71
流動資産合計	50,633	54,338	3,705
有形固定資産	50,381	51,098	717
無形固定資産	826	1,928	1,102
投資その他の資産	15,264	16,991	1,727
固定資産合計	66,471	70,018	3,547
資産合計	117,104	124,357	7,252

	23年3月期	24年3月期	増減額
仕入債務	18,178	19,817	1,639
有利子負債	22,949	22,663	△ 286
その他の	11,267	13,567	2,300
負債合計	52,394	56,048	3,653
株主資本	61,982	64,875	2,893
その他の包括利益累計額	1,414	1,904	490
少数株主持分	1,313	1,529	215
純資産合計	64,710	68,309	3,599
負債純資産合計	117,104	124,357	7,252

※有利子負債 = 借入金 + リース債務

■設備投資・減価償却費の状況■

(単位:百万円)

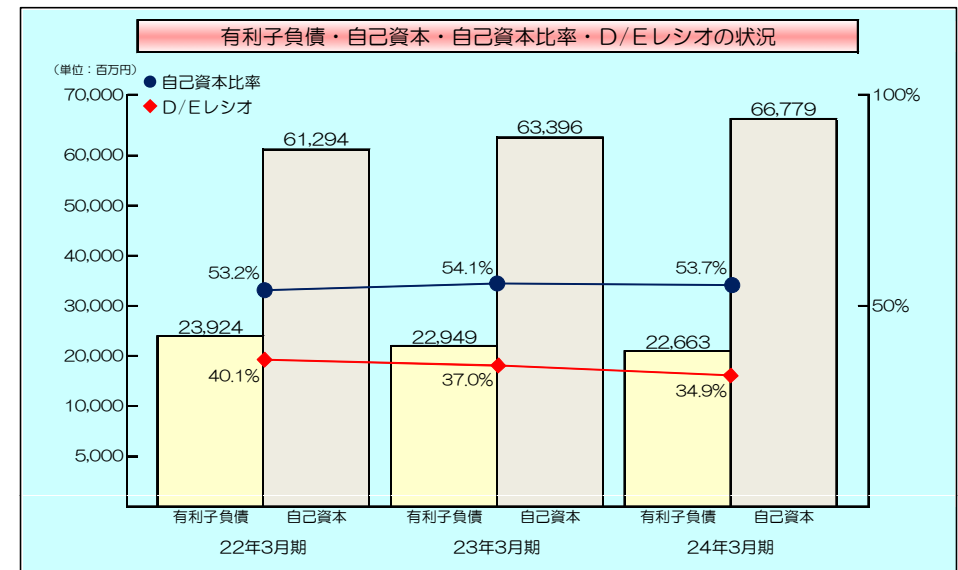
	23年3月期	24年3月期	増減額
設備投資	4,535	6,351	1,816
減価償却費	6,206	6,094	△ 112

(単位:百万円)

	23年3月期	24年3月期	増減額
自己資本	63,396	66,779	3,383
自己資本比率(%)	54.1%	53.7%	△0.4%
D/Eレシオ(%)	37.0%	34.9%	△2.1%

※D/Eレシオ = 有利子負債 ÷ 株主資本

- ◆総資産は、期末の休日要因等による売上債権の増加、及び固定資産の増加などにより、前期末比7,252百万円増加。
- ◆負債は、仕入債務の増加などにより、前期末比3,653百万円増加。
- ◆純資産は、当期純利益の計上などにより、前期末比3,599百万円増加。
- ◆以上の結果、自己資本比率は、前期末比△0.4%低下し、D/Eレシオは、△2.1%低下。
- ◆設備投資は、前年比1,816百万円増加の6,351百万円を実施。



平成24年3月期連結業績のポイント

(単位:百万円)

	23年3月期	24年3月期	前年比	
			増減額	増減率
売上高	198,752	204,127	5,374	2.7%
売上総利益 (売上高比率)	52,069 (26.2%)	52,473 (25.7%)	403 (△0.5%)	0.8% -
販売費及び一般管理費 (売上高比率)	46,345 (23.3%)	46,566 (22.7%)	220 (△0.6%)	0.5% -
営業利益 (売上高比率)	5,724 (2.9%)	5,906 (2.9%)	182 (0.0%)	3.2% -
営業外損益	98	216	118	-
営業外収益	831	867	35	-
営業外費用	733	650	△ 82	-
経常利益 (売上高比率)	5,822 (2.9%)	6,123 (3.0%)	301 (0.1%)	5.2% -
特別損益	△ 1,511	△ 836	675	-
特別利益	255	152	△ 103	-
特別損失	1,767	988	△ 778	-
税金等調整前当期純利益	4,310	5,287	976	22.7%
法人税等	73	1,037	964	-
少数株主利益	382	316	△ 65	-
当期純利益	3,854	3,933	78	2.0%

増減要因

■売上総利益■

売上総利益は、加工食品事業の売上高増加により前年比0.8%(403百万円)の増益。
売上総利益率は、原材料・燃料価格の高騰、食肉事業の収益性の低下などから25.7%と前年比△0.5%低下。

■販売費及び一般管理費■

前年比0.5%(220百万円)増加。対売上高比率は、22.7%と前年比△0.6%低下。
・売上高増加に伴い配送費が前年比3.4%(706百万円)増加。
・その他経費は、削減努力により前年比△1.9%(△485百万円)減少。

	23年3月期	24年3月期	増減額
人件費	13,876	13,826	△ 50
配送費	20,725	21,431	706
その他	11,744	11,309	△ 435
合計	46,345	46,566	220

■営業外損益■

金融収支の改善108百万円等により、216百万円と前年比118百万円増加。

	23年3月期	24年3月期	増減額
受取利息・配当金	274	300	25
その他	557	567	10
営業外収益	831	867	35
支払利息	493	410	△ 83
その他	239	240	1
営業外費用計	733	650	△ 82

■特別損益■

特別損失が778百万円減少し、特別損益は675百万円改善。

	23年3月期	24年3月期	増減額
固定資産処分益	255	68	△ 186
その他	0	83	83
特別利益計	255	152	△ 103
固定資産処分損	438	596	158
投資有価証券評価損	291	5	△ 286
減損損失	572	195	△ 377
災害による損失	253	0	△ 253
その他	213	192	△ 21
特別損失計	1,767	988	△ 778

キャッシュ・フロー

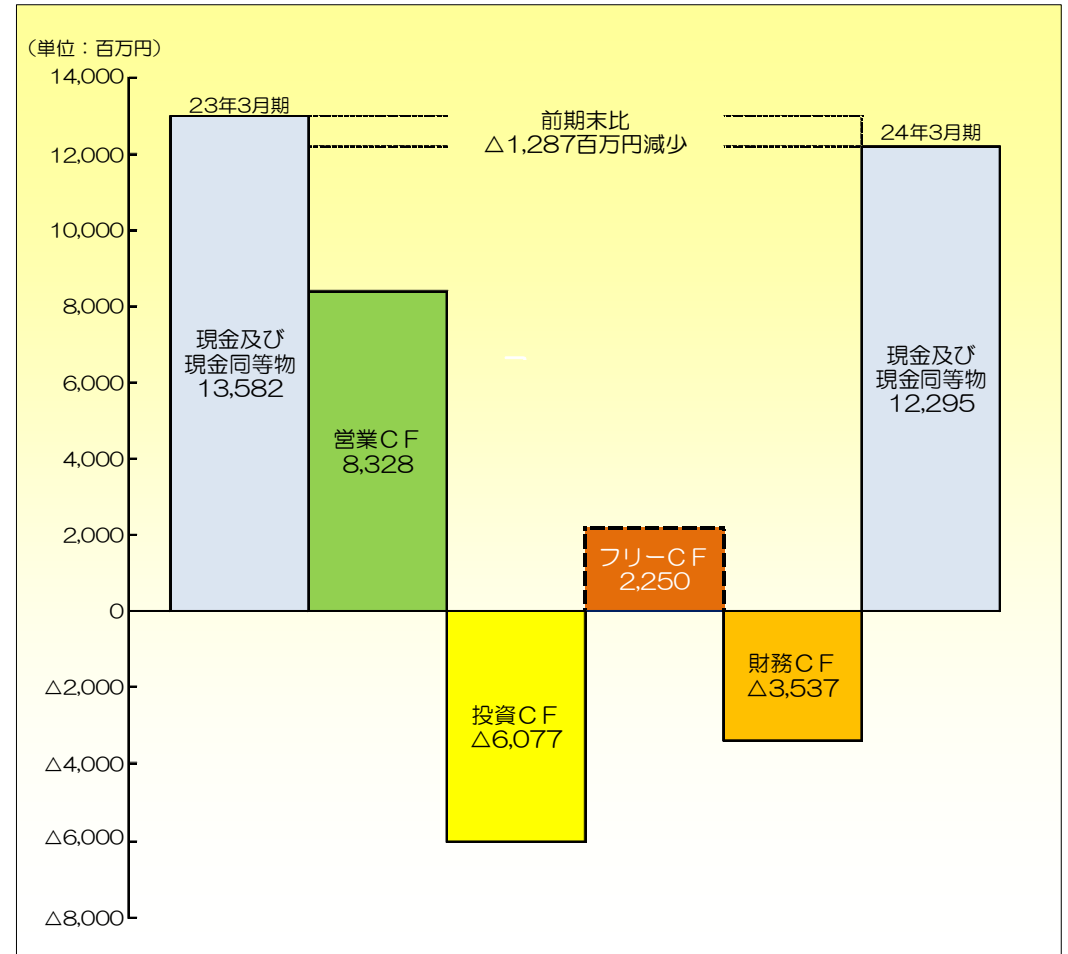
(単位:百万円)

	23年3月期	24年3月期	増減額
営業活動によるCF	9,825	8,328	△ 1,496
投資活動によるCF	△ 2,885	△ 6,077	△ 3,192
フリー・キャッシュ・フロー	6,940	2,250	△ 4,689
財務活動によるCF	△ 3,967	△ 3,537	429
純キャッシュ増減	2,966	△ 1,287	△ 4,253
現金及び現金同等物残高	13,582	12,295	△ 1,287

■24年3月期キャッシュフロー主な内訳■

(単位:百万円)

	23年3月期	24年3月期	増減額
◆ 営業活動によるCF			
・税金等調整前当期純利益	4,310	5,287	976
・減価償却費	6,206	6,094	△ 111
・運転資金	△ 339	△ 3,047	△ 2,707
・その他	△ 351	△ 5	346
◆ 投資活動によるCF			
・固定資産の取得	△ 3,128	△ 5,464	△ 2,336
・固定資産の売却による収入	690	336	△ 353
・その他	△ 447	△ 950	△ 502
◆ 財務活動によるCF			
・配当金の支払額	△ 925	△ 1,039	△ 113
・有利子負債増減	△ 2,396	△ 2,493	△ 97
・その他	△ 645	△ 5	639



※フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

■営業活動によるCF■

税金等調整前当期純利益の計上などにより

8,328百万円増加。

運転資金の減少△3,047百万円は、期末休日

要因による売上債権の増加が主要因。

■投資活動によるCF■

生産設備の増強・合理化、品質安定の為の固定資産

取得による支出などにより△6,077百万円減少。

■財務活動によるCF■

配当金の支払い、有利子負債の返済などにより

△3,537百万円減少。

次期の見通し

■通期見通し■

(単位:百万円)

	24年3月期 実績	25年3月期 計画		
		増減額	増減率	
売上高	204,127	210,000	5,873	2.9%
営業利益 (売上高比率)	5,906 (2.9%)	6,000 (2.9%)	94 (0.0%)	1.6%
経常利益 (売上高比率)	6,123 (3.0%)	6,200 (3.0%)	77 (0.0%)	1.2%
当期純利益 (売上高比率)	3,933 (1.9%)	4,000 (1.9%)	67 (0.0%)	1.7%
1株当たり 当期純利益	30.28円	30.79円	0.51円	1.7%
1株当 配当	9円	9円	-	-

■セグメント別 売上高、営業利益見通し■

(単位:百万円)

	24年3月期 実績	25年3月期 計画		
		増減額	増減率	
加工食品事業	150,179	155,000	4,821	3.2%
食肉事業	53,543	54,600	1,057	2.0%
その他	404	400	△4	△1.0%
連結売上高	204,127	210,000	5,873	2.9%
加工食品事業 (売上高比率)	5,486 (3.7%)	5,550 (3.6%)	64 (△0.1%)	1.2% -
食肉事業 (売上高比率)	242 (0.5%)	300 (0.5%)	58 (0.0%)	24.0% -
その他 (売上高比率)	177 (44.0%)	150 (37.5%)	△27 (△6.5%)	△15.3% -
営業利益 (売上高比率)	5,906 (2.9%)	6,000 (2.9%)	94 (0.0%)	1.6% -

(注) この資料に記述されている計画数値は本資料の発表現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって計画数値と異なる場合があります。

連結通期見通し

震災復興需要などによる景気回復への期待感はあるものの、当社グループを取り巻く事業環境は、穏やかなデフレ状態が続くなかで、価格競争の激化、原材料・燃料価格の上昇・高止まりが見込まれるなど、厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況の下、「お客様第一」「コンプライアンスの徹底」「安全性と品質の追求」により、安全で安心な食品の提供に努めると共に、業容の拡大と安定的な収益体質の構築に取り組んでまいります。

セグメント別の業績予想

■加工食品事業■

商品開発力の強化、コスト競争力の向上を推進すると共に、積極的な販売活動の展開により、当社ブランドの育成と浸透を図り売上の拡大に努めることにより、次期の業績は3.2%の増収、1.2%の増益を予想しております。

■食肉事業■

食肉全般の需給動向を的確に捉え、消費者や顧客のニーズに合致した食肉販売の推進により、売上の拡大に取り組んでまいります。次期の業績は、食肉相場の改善等により、次期の業績は2.0%の増収、24.0%の増益を予想しております。

以上により、次期連結業績は

売上高	210,000百万円(前年比2.9%増)
営業利益	6,000百万円(前年比1.6%増)
経常利益	6,200百万円(前年比1.2%増)
当期純利益	4,000百万円(前年比1.7%増)
配当	1株当たり年間9円

を予想しております。

ハム・ソーセージ部門

加工食品事業

調理・加工食品部門



燻製屋熟成ウインナー

お肉の旨味をじっくりしっかり引き出す72時間熟成製法。



いつも新鮮ロースハム



藻塩仕立てシリーズ

主カギフト

玉覇 (おうは)

大切に想うあの方に



じっくり熟成させ、豚肉本来の旨みを十分に引き出した、「特定JAS規格」商品を中心とした詰め合わせです。



煌彩 (こうさい)

笑顔が集うファミリーに



JAS特級規格を中心としたいろいろな美味しさを、ボリュームたっぷりに詰め合わせました。



スンドゥブシリーズ



旨味工房シリーズ



カフェで過ごすような、ほっとくつろぐ時間を提供するデザートです。

TAPIOCA TIMEシリーズ



SWEET CAFEシリーズ



ヨーグルト



marudai 丸大食品

本資料の記載内容には、将来に関する計画や戦略、業績の見通しの記述が含まれています。これらの記述は現時点で把握可能な情報等から得られた当社の判断に基づいております。また、これらの見通しには潜在的なリスクや不確実な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績は、記載の見通しとは異なる可能性があります。